

第21回 設楽ダム猛禽類検討会

議事概要

日 時： 令和 3年 11月 26日（金） 14:00～16:00

1. 設楽ダム猛禽類検討会の経緯と役割

- ・これまでの検討会経緯等について説明を行いました。

2. 令和3年（2021年）繁殖シーズンの調査結果について

- ・クマタカA、B、Cの各ペアについて、モニタリング調査結果を報告しました。
- ・クマタカA、B、Cの各ペアは、いずれも今シーズンの繁殖活動は確認されなかったことを報告しました。
- ・クマタカCペアにおいて、昨シーズン生まれの幼鳥が確認されたことを報告しました。
- ・クマタカAの高利用域及び営巣中心域は、昨シーズンより縮小したことを報告しました。その要因は、コアエリア内での複数の猛禽類における行動圏の重複による影響が考えられることを報告しました。
- ・クマタカBの高利用域及び営巣中心域は、昨シーズンより縮小したことを報告しました。その要因は、昨シーズン生まれの幼鳥に対する営巣地周辺での巣外育雛行動が考えられることを報告しました。
- ・クマタカCの高利用域及び営巣中心域は、昨シーズンから大きく移動したことを報告しました。その要因は、ペアの入れ替わりによる影響が考えられることを報告しました。
- ・クマタカA、B、Cの各ペアにおける高利用域と営巣中心域の変化については、要因が特定できないため、複数の可能性に着目して、今後もモニタリング調査を継続し、それらの変化を見ていく必要があるとの意見をいただきました。
- ・その他猛禽類として、ハチクマについて、事後調査開始以降、初の繁殖成功が確認されたこと、またサシバについて、昨シーズンに引き続き繁殖成功が確認されたことを報告しました。

3. 令和3年（2021年）繁殖シーズンの工事に対する環境保全措置等実施結果について

- ・クマタカA、B、Cの各コアエリア内において、今シーズンに施工中の工事を対象に、モニタリング調査による定点観察を実施した結果、忌避、警戒行動等は確認されなかったことを報告しました。
- ・工事個別の環境保全措置として、営巣木より500m内における伐採や発破について配慮すべき時期を外して実施したこと、及び同範囲内の岩盤掘削について作業時間を段階的に増やす馴化を実施したこと、また施工時のモニタリング調査では忌避、警戒行動等は確認されなかったことを報告しました。

4. 令和4年（2022年）繁殖シーズンの調査計画（案）について

- ・調査計画は、前年同様を基本とし、以下の留意点を加える計画について提案し了解を得ました。
- ・クマタカの高利用域と営巣中心域の確認にあたっては、前年状況を踏まえ、周辺工事の影響をはじめ、周辺で確認された幼鳥や他の個体及びその他猛禽類などの状況や、ペアの入れ替わりの可能性にも着目し調査を行うことを提案し了解を得ました。

5. 令和4年(2022年)繁殖シーズンの工事に対する環境保全措置等実施計画(案)について

- ・クマタカA、B、Cの各コアエリア内において、次シーズンに施工予定の工事を対象に、モニタリング調査による定点観察を実施し、忌避、警戒行動等が見られないか確認することを提案し了解を得ました。
- ・工事個別の環境保全措置として、クマタカBペアにおいて、営巣木500m内での鋼橋架設時の作業音に着目し、馴化を検討するとともに、施工中のモニタリング調査を実施することを提案し了解を得ました。

以 上